

かしわ ぎ じょう あと  
柏 木 城 跡

《北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会の記録》

2014年3月31日

北塩原村教育委員会

## 序 文

北塩原村には、国指定天然記念物の雄国沼湿原植物群落があり、夏のころには青々とした空を映した雄国沼のほとりに、ニッコウキスゲが咲き誇ります。また、裏磐梯とよばれる磐梯山北側の桧原湖・五色沼の周辺は、四季折々の山々と湖沼が織りなす自然美あふれる景観で磐梯朝日国立公園に指定されており、磐梯山は日本ジオパークに認定されるなど、国民の財産ともいえる豊かな自然環境にかこまれています。

そうした自然環境とともにわれわれの歴史は刻まれてきました。特に戦国時代は、会津と米沢を結ぶ古道をめぐって会津蘆名氏と米沢伊達氏のあいだで東北の覇権をかけた争いの舞台となり、多くの城館や砦がのこされています。また江戸時代は、会津藩により米沢街道として整備され、大塩や桧原では宿場が栄えました。山あいをぬって延びる道は、自然のなかで暮らしをつなぐ我々の先人の方々の歩みをささえ、その足跡を人知れずのこしてきました。

このたび戦国時代の蘆名氏の城郭である柏木城跡の調査報告書を刊行しますことは、村の歴史にさらなる光を当て、ふるさとの先人を偲ぶ事業として大変喜ばしく思います。柏木城跡は大塩地区の旧米沢街道・古道を望む場所に築かれ、会津進攻をもくろむ伊達政宗に対抗した蘆名氏方の境目の城であり、会津防衛の拠点として大きな役割を果たしていたことがわかるとともに、戦国時代の石積みの城として福島県を代表する山城としての意義が明らかにされました。

旧米沢街道に残された古道と城館等の歴史的な遺構群は、北塩原村が加盟する「日本で最も美しい村」連合でも高く評価されています。この報告書を今後の史跡活用につなげ、豊かな自然環境のなかで戦国時代の歴史ロマンを体感できる旧街道と戦国城館跡群に、より多くの方々に訪れていただけるきっかけとなれば幸いです。

平成26年3月

北塩原村長 小 椋 敏 一

## 刊行にあたって

北塩原村は、裏磐梯に代表される山紫水明の地としてつとに有名ですが、戦国時代における蘆名氏と伊達氏の攻防の最前線の地であり、また、歴史上の人物、上杉景勝や直江兼続、伊能忠敬、吉田松陰、新島八重等がそれぞれの思いを抱えて往来した米沢街道のある歴史の豊かな村でもあります。特に、中世から江戸時代にいたる歴史の中で築かれた城館跡や街道、遺跡などは良好に残されています。

このような村にある歴史遺産の価値を検証し、将来に向けて保存・活用をはかるべく、平成20年度に「北塩原村城館跡保存整備計画策定委員会」を立ち上げ、さらに平成22年度には、城館等の保存・整備・活用のより踏み込んだ議論を進めるために同委員会を発展的に解消し、名称を「北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会」として現在に至っております。

このたび刊行の運びになりました北塩原村文化財調査報告書第3集柏木城跡は、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会がこれまで検討を重ねてきた成果であり、今後の調査研究を進めるうえでの土台となるべきものであります。

柏木城は、戦国時代、蘆名氏と伊達氏の攻防の最前線となる「境目の城」という明確な性格を持ち、また、築城から廃城までの期間が短いことから時代的指標となりうる城跡で学術的価値も高く、保存状態の良さも合わせて北塩原村民の「誇り」となるべき貴重な遺跡であると考えております。

今回の発刊を通し、村民多くの方々が改めて村のすばらしさを知る機会となり、また、村内小中学校児童生徒の郷土理解学習が、さらに深まりのあるものとなることを期待してやみません。

最後になりましたが、このたびの北塩原村文化財調査報告書第3集柏木城跡を発行するに当たり、ご指導をいただきました福島県教育庁文化財課、多大のご支援・ご協力を賜りました北塩原村城館跡保存・整備・活用検討委員会の委員の皆様、そして地元大塩地区及び大久保地区をはじめ関係の方々に心より感謝とお礼を申し上げ、刊行のご挨拶といたします。

平成26年3月

北塩原村教育委員会

教 育 長 佐 藤 信 寛

## 例 言

1. 本報告書は、福島県耶麻郡北塩原村大字大塩字柏木城外に所在する柏木城跡の調査報告書である。
2. 柏木城跡は 北塩原村指定史跡（指定番号No.12）。福島県遺跡地図掲載番号40210021である。
3. 本報告書は、北塩原村が設置した日本中世史、考古学、城郭研究の有識者による「北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会（委員長 鈴木 啓）」での柏木城跡に関する学術的な検討に基づく。
4. 同委員会では柏木城跡中心部に関して現況を地表面観察して検討を行い、さらに文献史料からの成果等を加えて本報告書を作成した。柏木城跡は中心部以外にも広く遺構群が展開することが指摘されているが、それらについては今後検討を続けた上で報告書を制作する予定である。
5. 本報告書刊行にあたっては、北塩原村教育委員会教育課公民館班が事務局となり、県教育庁文化財課の指導を受け、同委員会の調査・研究の成果と意見を得ながら作成した。
6. 検討委員会の委員である石田明夫、高橋 明、高橋 充、鈴木 啓各先生からは、同委員会での関連調査報告の内容について、玉稿をいただきました。記して感謝申し上げます。
7. 本書の執筆は、第2章第1節・第4章：布尾幸恵、第2章第2節：木村郁夫、第2章第3節：五十嵐怜、第3章：長島雄一・布尾和史、関連調査の報告1：石田明夫、関連調査の報告2：高橋明、関連調査の報告3：高橋 充、あとがき：鈴木 啓、その他を布尾和史が執筆した。
8. 蘆名・葦名、松原・檜原など複数ある文字遣いについては、引用文をのぞいて、『北塩原村史』に準じさせていただいた。
9. 第1章から第6章の図と写真については、ことわりのないものについては事務局の撮影、作成である。
10. 本報告書の作成にあたり、柏木城跡の図は、石田明夫委員が作成したものを下図として使用させていただいた。石田氏は他の村内城館跡等についても詳細な図面を作成されており、村史等でも活用させていただいているところである。氏のご助力に敬意を表しつつ改めて感謝の意を表します。
11. 本報告書の作成にあたり、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会の鈴木 啓、石田明夫、高橋 明、佐藤一男、長島雄一、高橋 充の各委員には、報告書原稿の執筆や草稿の検討なども含めて多岐にわたる指導・助言をいただきました。また、下記の方々、機関より指導・助言と資料の提供をいただきました。記して感謝申し上げます。  
梶原圭介、梶原文子、金子明洋、北垣聰一郎、佐藤真由美、田村昌宏、丹野隆明、布尾幸恵、根本豊徳、平田禎文、山崎四朗、吉田博行、渡部新一、福島県教育庁文化財課、福島県立博物館（50音順）

# 目 次

序 文	北 塩 原 村 長	小 椋 敏 一	
刊行にあたって	北塩原村教育委員会教育長	佐藤 信寛	
第1章 調査の経過	布尾 和史	……………	1
第1節 調査に至る経緯			
第2節 調査の経過			
第2章 柏木城跡の位置と環境			
第1節 地理的環境	布尾 幸恵	……………	5
第2節 歴史的環境			
第3節 柏木城跡周辺の動物	木村 郁夫	……………	8
第4節 柏木城跡と周辺の地形について	五十嵐 怜	……………	9
第3章 柏木城跡中心部分の現状	長島雄一・布尾和史	……………	11
第1節 概 要			
第2節 主郭とその周辺の遺構			
第3節 馬出とその周辺の遺構			
第4章 文献にみる柏木城跡	布尾 幸恵	……………	28
第1節 主要文献			
第2節 年 表			
第5章 検 討 -これまでの研究と今後の課題-	布尾 和史	……………	34
第1節 呼称について			
第2節 柏木城の築城から廃城	1 築城 2 築城者 3 城番 4 廃城		
第3節 絵図、縄張り図について	1 絵図 2 縄張り図		
第4節 遺構について	1 石積み 2 虎口 3 馬出 4 弧状石積み		
第5節 柏木城跡中心部の構造について			
第6節 他地域との関連について			
第7節 柏木城跡の範囲			
第8節 性 格			
第6章 総 括	布尾 和史	……………	50
関連調査の報告1 柏木城跡について	石田 明夫	……………	53
関連調査の報告2 柏木城の文献による沿革	高橋 明	……………	60
関連調査の報告3 三瓶（三平）氏について	高橋 充	……………	65
あとがき 柏木城はいかなる城であったか	鈴木 啓	……………	71
報告書抄録			